

# Information

## イベントカレンダー

### ■ 雑木林観察会（子ども夢基金事業）

- ・日時：3月29日（土）13：00～15：00
- ・場所：南沢水辺公園
- ・内容：雑木林の観察とネイチャーゲームを通して自然を体験します。
- ・参加費：100円（保険・資料代）
- ・定員：30名（親子での参加可）
- ・主催：NPO法人 子どもセンターウェブ
- ・申込み&お問い合わせ：042-472-0882（菅谷）



### ■ 緑地保全地域の管理作業

- ・日時：毎月第2・第4土曜日  
9：00～15：00頃まで
- ・場所：東久留米市内 緑地保全地域7ヶ所、  
歴史環境保全地域3ヶ所など
- ・参加費：入会金 1,000円、年会費 1,000円  
ボランティア保険 300円
- ・主催：東久留米自然ふれあいボランティア
- ・申込み方法：電話連絡のうえ、直接作業場所へ。  
毎回作業場所が変わりますので必ず  
確認して下さい。
- ・申込み&お問い合わせ：042-421-0439（小野木）

### ■ こどもとおとなの自然塾（1） 「春の野草を見てみよう」

- ・日時：4月27日（日）9：00～11：00  
（雨天中止）9：00集合
- ・集合場所：東上線「柳瀬川駅」前サミット前広場
- ・内容：春の野草を見ながら、柳瀬川沿いを歩きます。
- ・持ち物：筆記用具、季節の対策 等
- ・参加費：200円（会員100円、中学生以下は無料）  
※ 家族参加は家族全員で1名扱い
- ・主催：NPO法人 エコシティ志木  
（財）埼玉県生態系保護協会 志木支部
- ・後援：志木市立教育サービスセンター
- ・申込み&お問い合わせ：048-471-2211  
（志木市立教育サービスセンター）



### 【今後の緑地管理作業日程】

- ・日時：4月12日（土）9：00～15：00頃まで
- ・場所：南沢緑地保全地域
- ・内容：観察&野草管理作業
- ・日時：4月26日（土）9：00～15：00頃まで
- ・場所：氷川台・金山緑地保全地域
- ・内容：柵補修&枯れ木枯れ枝除去
- ・日時：5月17日（土）9：00～15：00頃まで
- ・場所：小山緑地保全地域内 茶畑
- ・内容：茶摘み&製茶・保全活動など  
（市・生活文化課との協力）

## 事務局便り

### 川づくり連絡会に参加してみませんか？



川づくり連絡会の様子

原則第2火曜日に新河岸川流域川づくり連絡会を開催しています。参加希望の方は、右記事務局までお問い合わせください。（開催場所はお問い合わせ時にお知らせします。）

### しんぶん「里川」掲載情報を大募集します！

各流域や地域での活動報告やイベント情報を募集しています。身近な情報などをお手紙または FAX・メールにて事務局までお寄せ下さい。

#### ■ 連絡先

〒115-0042 東京都北区志茂5-41-1  
新河岸川流域川づくり連絡会 事務局  
（国土交通省関東地方整備局 荒川下流河川事務所 調査課内）  
TEL 03-3902-3220 FAX 03-3902-2346  
URL <http://www.ara.go.jp/arage/shingashi/>  
E-mail [shingashi@ara.go.jp](mailto:shingashi@ara.go.jp)

# THE SHINGASHI BASIN NEWS

## 新河岸川流域しんぶん



発行●新河岸川流域川づくり連絡会（荒川下流河川事務所 調査課内）  
住所●東京都北区志茂5-41-1 TEL03-3902-3220 FAX03-3902-2346  
発行日●2008年（平成20年）3月21日

VOL. 51



切り絵 毛利将範

寒さも和らぎ、だんだんと流域の色合いも華やかさを帯びてきました。この華やかさを演出している生き物たちの「春の歩み」は南の暖かい地域から始まり、日本列島を北上していきます。「春の歩み」は生き物によってペースが異なり、ソメイヨシノの開花は20km/日、タンポポの開花は15km/日、モンシロチョウの飛び始めは25km/日、ツバメの渡り始めは27km/日になるそうです。「第4回川でつながる発表会」でも、様々な生き物についての紹介があり、「春の歩み」を感じることができました。

また、今回から里川では新コーナーを設置しています。何かとためになる話を連載予定ですので、楽しみにしてください。

## 目次

- P 2-3 特集：川づくり見学会・交流会
- P 4-5 特集：川でつながる発表会
- P 6 レポート：流域の活動紹介
- P 7 行政からのお知らせ
- P 8 流域イベント・インフォメーション



# 第14回新河岸川流域川づくり見学会・交流会

野川は、国分寺市に源を発し、武蔵野台地の南端、国分寺崖線に沿って、小金井市、三鷹市、調布市、狛江市を貫流し、世田谷区で多摩川に合流する延長 20.2km の一級河川です。

かつて、小金井市の野川沿いには、田んぼが広がり、国分寺崖線の湧水や森林等により湿地や植生帯など多様な自然環境が広がっていましたが、その後の沿線の都市化や土地利用の変化により自然環境の多様性が損なわれ湧水も減少しています。

これらを保全・復活するために、沿線の市では「雨水浸透ます」設置の普及や斜面林の保全など様々な取り組みが進められています。本見学会では、残された貴重な湧水を見学するとともに、これらの湧水や斜面林・崖線を今後保全していくための市民と行政によるさまざまな取り組みについて学びました。



【野川公園】

1

## 【小金井市役所】

小金井市における行政と市民による湧水保全の取組や雨水浸透ます設置状況について説明がありました。



## 【小金井市役所駐車場】



(左) 市役所駐車場に設置されている雨水浸透ますに雨水タンクに貯まった水を流し込み、浸透の様子を見学しました。



(右) 浸透実験中の雨水浸透ます。水がどんどん浸透していく様子がよくわかりました。

2

## 【滄浪泉園】



(右) 水琴窟の音に心が癒されました。

(左) 緑道途中の湧き水等、身近に触れる事ができる湧水を多く見ることができました。

## 【貫井神社】

(右) 古くから湧水と共に市民に親しまれてきた歴史ある神社。中央の池の淵には一年中湧水がみられます。  
(左) 社の裏手の湧水の説明にも注目が集まりました。



## 【野川 (弁天橋付近)】



上流から武蔵国分寺湧水系の水が集まる場所。浸透ますの普及と農地や緑地の保全により、野川の水量確保・水質の改善を目指しています。

* * * * * 当日の行程 * * * * *	
9:55	小金井市役所本庁舎駐車場集合
①10:00~10:50	小金井市役所本庁舎 ・行政の取り組み(湧水保全)の説明 ・見学(雨水貯留・浸透体験施設)
②11:00~12:00	湧水見学 ・滄浪泉園 ・貫井神社 ・野川(弁天橋付近)
③12:10~13:30	交流会(質疑応答)・昼食
④13:45~14:00	都立武蔵野公園
⑤14:15~14:30	野川第一、第二調節池 ・どじょう池
⑥14:45~15:45	野川公園 ・ほたる川
16:10	武蔵小金井駅 解散

3

## 交流会【小金井市役所本庁舎 第一会議室】

午前中の見学終了後に、小金井市役所第一会議室内で交流会が開催され、説明者4名、新河岸川流域川づくり連絡会のメンバー20名の間で活発な意見交換が行われました。



### ① 宅地の雨水浸透施設の普及率が高いのは、何か別な理由があるのか？

- ・一番大きいのは、指定工事店の協力と市民の納得。
- ・市民の方々に雨水貯留浸透施設を設置していただくことで、雨水(不明水)等の処理に使われる税金を減らしていくことができる事をPRしていく。また、市民と行政とが一緒に、「雨を活かすまちづくり」について考えていきたい。

### ② 宅地以外の雨水貯留浸透施設の取り組みについて教えてほしい。

- ・大規模開発の場合は、宅地部分を除いた20%の緑化、空地が取れない場合は、駐車場を緑化するなどをお願いしている。
- ・道路本体での浸透は耐久性の問題等で難しいが、歩道部分では浸透の取り組みが進んでいる。
- ・道路の浸透については、維持管理や耐久性などが今後の検討課題であると認識している。

### ③ 湧水の保全や野川の水量確保のために、雨水浸透施設以外に、どのような対策を検討されているか、教えてほしい。

- ・雨水浸透施設だけが施策ではなく、もっと大事なのは緑地の保全である。
- ・緑地や農地を保全していくべきであるが、開発が進み、小金井市の緑は減ってしまった。

### ④ 周辺自治体や住民との連携について教えてほしい。

- ・小金井市の場合、野川の水量を復活させようというきっかけがあり、住民との協力が生まれた。
- ・行政の会議として環境保全協議会が設置されており、行政と市民とで連携している組織として野川流域連絡会がある。
- ・野川流域連絡会は、東京都が事務局を担い、流域6市の自治体と住民とが一緒になって、野川について考えようという組織であり、現在第三期目となっている。
- ・野川流域連絡会が設立されたのは2000年であるが、小金井市で1973年に野川の湧水・水辺空間を守る市民運動がはじまり、その後、その運動は野川流域に広がった。

4

## 【都立武蔵野公園】

(右) 緑の多い公園内は近隣の住民や小鳥達の憩いの場となっています。



(左) 『見えない貯水池』。降った雨水が地下に作った施設に溜り、ゆっくりと地中に浸透し、野川に流れていきます。

5

## 【野川第一、第二調節池】

市民より調節池の周りの湧水を有効活用し、調節池内にビオトープを作りたいとの要望があり、市民と行政とで検討を行って、ビオトープが設置されました。平成18年から「かつてあった水のある豊かな自然の再生」を目指して自然再生事業を進めているとの説明がありました。



どじょう池

6

## 【野川公園】



(左) ほたる川は市民によって設置された水路で魚の産卵の場や大水・水枯れの際の避難場になっています。  
(右) 「野川ルール」はみんなが楽しめる野川であるために、いろいろな問題を考えるヒントとして野川流域連絡会生きもの分科会により作られました。

## 参加者の感想

- ・滄浪泉園、貫井神社、野川公園、ビオトープに湧水が多いのには驚いた。
- ・行政の雨水浸透に対する取り組みはもとより市民へのPR、それに伴う協力の姿勢(設置)が素晴らしい。
- ・市民・企業に対する雨水浸透施設も良いが、道路の雨水浸透を管理者が積極的に行う事が重要と思った。
- ・職員の方の情熱に圧倒された。
- ・野川公園の広さや自然といった私達の財産を目の当たりにし、永く保ってゆかなければと再確認した。
- ・自分達の活動の場である川について、日頃話合っている考え方にエールをもらったところがあった。(川の歴史を大事にするなど)



# 報告! 第4回 川でつながる発表会

去る2月10日(日)、「第4回 川でつながる発表会」が開催されました。この発表会は、川や水、環境を対象とした学習・研究、ボランティア等の活動成果を発表するとともに、活動を通じて感じたことや考えたことについて意見を交換し、世代を超えた交流を育むことを目的としています。

今回は、小、中、高等学校と大学から各2校ずつ、計8校から発表がありました。当日の参加者は118人で、発表校の発表者とその関係者、川づくり団体のメンバーなど幅広い世代が集まりました。

休憩時間では、各校の発表や展示パネルの内容から出題されたクイズを解きながら、参加者同士の交流を深めました。

**開催日：**平成20年2月10日(日)  
**開催場所：**朝霞市中央公民館・コミュニティセンター3Fホール  
**開催内容：**13:05 主催者挨拶  
 13:10 発表会  
 15:20 交流休憩時間(クイズラリー、パネル展示など)  
 15:40 表彰状授与  
 15:50 講評  
 15:55 記念撮影  
 16:00 閉会  
**主催：**新河岸川流域川づくり連絡会

## 発表会の様子







力作ぞろいのパネルを真剣に見ています



発表を熱心に聴いています

## 参加者の声

- ・専門的な用語の解説の場、機会があると良い。
- ・発表した児童、生徒がやってよかった、次にも行動していきたいと思えるようなフォローをぜひお願いしたい。
- ・輪が広がり、環境が良くなることを皆で推進したい。
- ・環境汚染が心配されている時に、川などの環境について多くの人が考えている事を知り、安心しました。またこの発表会に参加して、自然について考えることが改めて楽しいと感じた。
- ・いろいろな意見が触れ合う事について感心を持った。
- ・年々充実してきていると感じた。
- ・クイズラリーはとてもおもしろかったし、パネルをよく見るきっかけにもなったので、ぜひ来年もやってほしい。
- ・いい活動なので、これからも続けてほしい。
- ・小学校から大学までの児童生徒学生さん達がそれぞれの手法で学び合えてきて、川について学びあう事が人と川とのつながり、人と人とのつながり…(人間と地球とのつながりまで)などと交流が深められたと思う。

<p><b>清瀬市立清明小学校</b> 清瀬下宿ビオトープの生き物たち -春・夏・秋・冬-</p>  <p>発表風景</p> <p>ザリガニ採り</p> <p>清瀬下宿ビオトープについて、春夏秋冬の草花、虫、鳥、魚などの観察や、観察を通じて学んだこと、そしてこの活動によってさまざまな植物、虫たち、鳥たち、川の中の生き物たちと仲良く生活することの大切さに気づいたという発表がありました。</p>	<p><b>所沢市立牛沼小学校</b> 東川の自然と環境</p>  <p>発表風景</p> <p>東川の植物</p> <p>川や生き物調査の結果、上流部での人為的な汚染や、地域の人々などが川沿いに桜を植え、自然を感じる環境が作られていることを知り、その環境を壊さないよう心がけ、少しでも貢献したいという発表がありました。最後には、東川の災害対策なども紹介しました。</p>	<p><b>埼玉県立福岡高等学校</b> 新河岸川の水質調査</p>  <p>発表風景</p> <p>水質調査地点</p> <p>同じ川でも上流と下流で水質が異なることや、化学水質検査と水中細菌の検出結果が必ずしも一致しないという結果を報告しました。また、川幅や植物は水質を浄化させると推測されるため、周囲の環境をよくすれば水質も改善できるという考察がありました。</p>	<p><b>埼玉県立富士見高等学校</b> 写真部</p>  <p>発表風景</p> <p>土地利用図と調査地点</p> <p>武蔵野台地崖の湧き水を水源とし、台地を削って市内を流れる川である砂川堀、図川、尺地堀、富士見江川、旧富士見江川、東櫻井都市下水路、権平川、唐沢堀、柳瀬川を撮影し、ファインダーを通じて感じたこと、さらにその地域の歴史的な背景も加えた発表がありました。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**川づくり・清瀬の会 宮澤さんによるコメント・質問**  
 清明小学校には、「ビオトープに住むたくさんの生き物について四季を通じて調べており、また地下水の温度についても記録をしています。是非、桜を見に行きたい。」というコメントがありました。

**NPO 法人エコシティ志木 天田さんによるコメント・質問**  
 福岡高等学校には、「水質の調査を今後も続けることや、身近な川の一斉調査など、他の団体や学校と協力してデータを増やし、さらに考察を深めてほしい。」、富士見高等学校には、「写真だけでなく歴史の勉強もしていて関心が高い内容となっている。街づくりにも活かしていければよいと思う。」というコメントがありました。

<p><b>朝霞市立朝霞第三中学校</b> 朝霞第三中学校と黒目川の自然</p>  <p>発表風景</p> <p>理科授業での観察</p> <p>学校近くの黒目川は多種多様な生き物が存在する川で、理科の授業や総合学習の時間に行った『黒目川体験講座』などでその自然と触れ合うことができたこと、この生態系を壊さないようみんなが見守る心をつくってほしいという発表がありました。</p>	<p><b>私立明法中学・高等学校 科学部</b> 野火止用水を歩いて</p>  <p>発表風景</p> <p>新河岸川合流点の水門</p> <p>科学部は『環境を考えた科学と物づくり』をテーマに、毎週土曜日の水質調査や、野火止用水のゴミ拾い散策などを行っていて、特にタバコのすいがらが目立ったという報告がありました。また、ゴミ拾いを東京湾までつなげていきたいという今後の展望についての発表もありました。</p>	<p><b>法政大学 水文地理学 (小寺) 研究室</b> 新河岸川流域水環境の現状と保全・再生・共生に関する水文地理学的研究</p>  <p>発表風景</p> <p>字単位の流域人口分布図</p> <p>小流域原単位法によって新河岸川流域の汚染負荷量を推計し、身近な川の一斉調査の実測値との比較やGISを用いて流域の特性を考察しました。また今後の展望として、総合的な流域管理に利用できるような研究を進め、そのためには産官学民による連携が必要であるという発表がありました。</p>	<p><b>早稲田大学 所沢キャンパス 湿地保全活動</b></p>  <p>発表風景</p> <p>竹林の手入れ</p> <p>早稲田大学所沢キャンパスの湿地保全活動の特徴は、早稲田大学自然環境調査室の指導のもと、学生と市民が協力して実施していることです。下草刈りや落ち葉かき、シジュウカラの観察など、年間を通じた調査、野外作業、散策、講義の4つを行っているという発表がありました。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**黒目川流域川づくり懇談会 藤井さんによるコメント・質問**  
 朝霞第三中学校には、「たくさんの数の植物を観察していて驚いた。川の状況によって生き物は変化すると思うので、後輩へつなげてほしい。」、私立明法中学・高等学校には、「ゴミを拾いながら歩くことは素晴らしい。今後はその地域の人たちの話を聞きながら歩いたら楽しいし、地域の人たちに多くのゴミが捨てられている現状を知らせる方法を考えてほしい。」というコメントがありました。

**柳瀬川流域ネットワーク 宮本さんによるコメント・質問**  
 「各大学で対照的な発表だったがどちらも重要な活動だと思う。」というコメントがありました。また、法政大学には今後の新河岸川流域のあり方に対する質問があり、産官学民の連携を踏まえた流域づくりを考えているという回答がありました。早稲田大学には、活動を広げるためのアイデアについて質問があり、湿地保全活動の参加者が自主的に活動を行うことで、価値観が広まってほしいという回答がありました。



# REPORT

## 身近な川の一斉調査報告会 2007

新河岸川水系水環境連絡会主催の「身近な川の一斉調査報告会 2007」が、1月13日(日)に朝霞市のリサイクルプラザ「エコネットあさか」で開催されました。

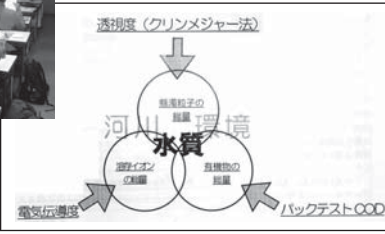
全国水循環マップ実行委員会事務局からの報告によれば、2004年からスタートした「身近な水環境の全国一斉調査」は、今年度、全都道府県で実施され、測定地点数が過去最高に至ったとのこと。また、石垣島などの離島でも取り組まれたほか、琵琶湖周辺で水質調査への関心が高まっていることなども併せて報告されました。

柳瀬川水循環マスタープラン市民プロジェクトメンバーからは、新河岸川流域の一斉調査のデータなどを用いたGISデータベースの発表がありました。Googleマップ上に流域内の情報(生物・イベント・水質など)を載せ、見るだけでなく任意に情報を追加できるシステムを製作中とのことでした。説明は実際に試行版の画面を操作しながら

行われました。調査結果の報告後には、調査データの活用方法などに関して活発な意見交換が行われました。



新河岸川水系水環境連絡会による調査結果発表の様子



3つの分析対象より新河岸川流域の水質を読み解きます

身近な水環境全国一斉調査参加者の推移

調査年度	2004年	2005年	2006年	2007年
実施団体数	531	1,000	944	917
実施地点数	2,545	5,018	4,923	5,473
参加人数	4,000	8,377	8,464	8,151

出典：「身近な水環境の全国一斉調査 調査結果概要 2007」より

※次回の「身近な川の一斉調査」は、2008年6月8日開催予定です。

### 柳瀬川流域水循環市民懇談会が開催されました！！

◆平成19年11月28日(水) 第4回柳瀬川流域水循環市民懇談会開催  
【所沢市民文化センター ミューズ】



各流域ブロックで保全・改善したい場所について議論しました。各流域ブロックの見学コースについて代表者より説明がありました。

今回の懇談会では、出席者によって流域内で保全・改善したい場所が抽出され、市民でできる取り組みやアクションプランの候補地について議論がなされました。その後、実際に見学を行うポイントの絞り込みが行われ、見学コースが提案されました。

出席者からは、「法制度や予算は行政が頑張り、市民の輪は私たちが頑張っていく」「柳瀬川の守りたい場所は、以前は多くあったが、すでにそのうちのいくつかは失われつつある」「自然を残し、もっと親しめる川にしたい」等の意見がありました。

◆平成20年2月2日(土)・16日(土) 第5回市民懇談会開催

前回の市民懇談会における提案に基づき見学会が開催されました。主な見学場所は以下の通りです。

- ★柳瀬川上流ブロック：淵の森～西武グラウンド跡地～東村山市緑地保全地区
- ★柳瀬川下流ブロック：清瀬水再生センター～清瀬下宿ビオトープ公園～滝ノ城址公園
- ★空堀川ブロック：上砂橋～下立野林間こども広場～東芝中橋
- ★東川ブロック：北野総合運動公園～小手指ヶ原公園計画地～調整池(所沢西高校傍)～北中の森

#### 【参加者の感想】

- ・環境を守るためには、大変な努力とお金がかかる事が改めてわかり、行政と市民が共通の認識を持つ必要があると痛感した。
- ・安心して遊べる川辺にする事がきれいな川を作ることになる。
- ・本当に今緑地を残す仕組みを作らなければ間に合わない。
- ・川だけでなく、流れ込む雨水・地下水等の保全の必要性を感じた。
- ・地域住民としてボランティア活動を続けていきたい。



宅地開発が計画されていましたが市民運動によって、保全されました。



この地点で流入する浄化工場排水が空堀川の水源の一部となっています。



市民と行政の協力で整備・管理されている公園です。



市民によって萌芽更新や下草刈り、ゴミ拾いが行われています。

## 国土交通省からのお知らせ みんなの流域、みんなで治水！

新河岸川流域の様々な場所で川づくり連絡会が開催するイベントに合わせて、流域や総合治水に関する紹介パネルを展示をしています！次はあなたの街にお邪魔するかも！？



新河岸を知る  
新河岸川流域の特徴を紹介しています！



総合治水を知る  
総合治水対策って何？という疑問にお答えします！



つながりを知る  
川づくり連絡会や川づくり市民団体の紹介をしています！

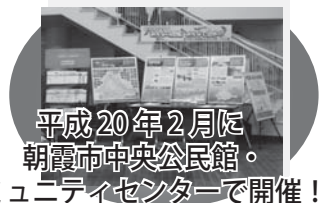


現在、荒川知水資料館(AMOA)にて開催中！！



平成19年10月に志木市役所で開催！

### 新河岸川総合治水対策パネル展



平成20年2月に朝霞市中央公民館・コミュニティセンターで開催！

歩いて知る  
新河岸川流域内の様々な「みどころ」を紹介しています！身近なところで新しい発見があるかも！？



## 流域の川をたずねて(1)

～不老川は歳をとらない?!～

- お母さん、今日、「新河岸川流域の川の名前をしらべてみよう」って宿題がでたよ。
- 川の名前ねえ。お母さんはあんまりよくわからないな。お父さん知ってる？
- うーん。実家のそばを流れている川は確か・・・「不老川」だったな。
- 「ふろうがわ」って不思議な名前だね。
- 昔「としとらずがわ」ってお袋が言ってたな。ちょっと電話で聞いてみたら？
- うん。・・・もしもしおばあちゃん？
- あれ、急にどうしたの？
- 「不老川」の名前の由来を知りたいんだけど。

- ああ、それはね。この川は冬場に川の流が途切れるの。よく、川の流を人生に見立てることがあるけれど、昔の人は流が途切れた様子を見て、「としとらずがわ」って呼ぶことにしたんだよ。今は「ふろうがわ」と呼んでいるけどね。
- へえ～そうなんだ。ありがとう、おばあちゃん！これで不老川の由来が分かったぞ！
- 冬に水が流れない川は全国にあるけれど、それを、「としとらず」なんてうまい具合に表した昔の人の風流を感じるなあ・・・

川は普段は水が流れていても、雨が少ない時期(真冬など)に水が流れなくなることがあります。蒸発や浸透の為、途中で川が消えてしまうのです。武蔵野台地のような扇状地や砂漠地帯を流れる川でしばしば起こる現象です。